

公共空間における環境彫刻Ⅲ

— The Line 2000 - 1 —

有田 信夫 平嶋 守* 瓜生 隆弘**

Environmental Sculptures in Public Spaces Ⅲ

— The Line 2000 - 1 —

Nobuo Arita, Mamoru Hirashima* and Takahiro Uryu**

Abstract

Many sculptures have been installed in public spaces all over the country over these last 20 years. The reason is because a sculpture's setting raises a beautiful sight, and this is because it gives people visiting a public space a message and a sense of ease.

However, when a sculpture was installed in a public space, there were many cases left to the judgment of a person concerned with a sculptor and administration of the establishment till now. In the case of the person about sculptor and administration, much thought about public harmony with the space is given to the setting. If anything, the person about sculptor and administration, the setting is apt to depend on the sense of the world. On this account because I am adverse to an aim of the sculpture establishment, and an installed sculpture is inappropriate, I lost an image of public space, and there is the case that it can stream down an original message, and does not give a sense of ease. In addition, when an inappropriate work was installed in a certain public space, It lost a beautiful sight visually and, it gives a person contacting with the sculpture an unpleasant psychological feeling.

When work with an inappropriate image was installed in a certain public space the sculpture loses a beautiful sight visually and, besides, gives a person close against a sculpture an unpleasant feeling psychologically. The ideal method of the scene includes public space and harmony with the sculpture in question.

Therefore at first, I took up the sculpture (The Line 2000 - 1) at the Hyuga cape Green Park which was an environmental sculpture that began as an object of the studies to put an appropriate sculpture in the public space.

We investigated a production concept and a production process, the relations of the Hyuga cape Green Park which became the sculpture of the public space in the background, environmental sculpture and the relations of the citizens' taste image.

Key words : Environmental Sculptures, Public Space, Sensibility image

* スタジオ CoCoRo

** 近畿大学九州短期大学

公共空間における環境彫刻

Environmental Sculptures in Public Spaces

有田信夫 / ARITA NOBUO 瓜生隆弘 / URYU TAKAHIRO 平嶋守 / HIRASHIMA MAMORU
近畿大学九州短期大学 / kyshu Junior College of Kinki University スタジオ Cocoro



作品タイトル「Line2000-1」

作品概要（素材：鉄、制作手法：溶接、サイズH410×W400×P300、制作年：2000年）

I . 研究の目的

本研究では次の項目について調査・分析することを目的とする。

- (1) 研究・制作の背景
- (2) 彫刻制作コンセプト
- (3) 彫刻制作プロセス
- (4) 制作後のイメージ調査

公共空間の彫刻と背景になる風景の関係

(1) 研究・制作の背景

1991年に日向市および日向市教育委員会は日向現代彫刻展を企画した。最初、日向現代彫刻展は市内で開催されていたが、1996年から日向岬グリーンパークで開催されるようになった。日向現代彫刻展のコンセプトは、「うるおいと生きがいのあるまちづくりを目指し、広く市民に現代彫刻を鑑賞する機会を提供し、美術文化水準の向上をめざすことを目的とする」ものであった。

作者も2000年に実行委員会に出品作家として選定され、出品する機会を与えられた。

(2) 制作のコンセプト

彫刻は、日向市のシンボルとなる日向岬グリーンパークの馬ヶ背を中心に直状列石の豊かな自然の恵みを受けた空間に設置する彫刻である。したがって日向岬グリーンパークの顔となるものである。一方、彫刻に求められるものは、市民に親しまれる彫刻でもある。まず、設計にあたっては、下記の6点を考慮し、計画をすすめた。

- ①彫刻によって日向岬グリーンパークに面する環境の特徴的要素である太平洋につながる海のイメージや山のイメージをきわだたせる。
- ②会期中はイメージが変わらない素材にする。
- ③岬に設置するので、潮風を考慮する。
- ④風を考慮し、彫刻の構造を地下構造でささえる。
- ⑤見ていて力強く、カジュアルな彫刻であること。
- ⑥彫刻と背景の海や山のイメージの構造関係を明確にする。

(3) 制作のプロセス

- ①コンセプトを基にアイデアスケッチ（100枚程度）を繰り返し、デッサンを描いた。
- ②イメージの決定。
- ③それを基に実物の20分の1でマケットの制作。
- ④模型の寸法から本制作用の図面作成。
- ⑤素材と構造の決定。鉄工所への発注。

⑥本制作期間：二ヶ月間。

(4) 制作後のイメージ調査

1. 調査の目的

公共空間の環境彫刻を計画・制作するに当たり、制作者のコンセプトを第三者に伝えなければならない。しかし彫刻家などが制作にかかわる場合、感覚的世界に頼りがちである。また仮に公共空間に設置されたとしても、不適切なイメージの作品の場合には、美観を損なうだけでなく、心理的にも影響を与えかねない。そこで本研究では公共空間と彫刻との調和を含めた景観のあり方を検証することを目的に、本作品の公共空間に設置後のイメージ調査を以下の内容で実施した。

制作を行った日向岬グリンパークの環境彫刻（The Line 2000 - 1）については、見ている人にどのようなイメージに伝わっているのか。環境彫刻（The Line 2000 - 1）と日向岬グリンパークの風景との関係については、イメージの構造を明らかにするために基礎的データ作りの調査研究を行った。

2. 調査の方法

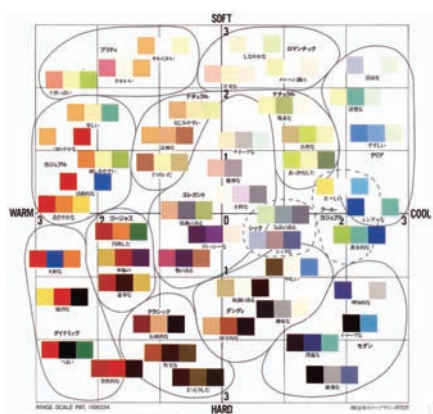
NCD 法による分析・結果・考察の調査研究を行った。

NCD 法とは対象に対して被験者が抱く総合的印象を形容詞言語に置き換え、さらに形容詞言語が色彩と等価交換できることを特徴としている。また、NCD 法は造形嗜好感性調査の多変量解析で、ものづくりに関する色彩、形態、材質、などの嗜好感性を尺度化、しかもそれらの相関性や構成法を事前検証している。

言語イメージスケール



カラーイメージスケール (Color Image Scale) diagram showing a grid of color swatches and their relationships.



3. 調査

①調査の期日

平成 20 年 9 月 平成 20 年 10 月

②調査の対象

日向岬グリーンパークの環境彫刻「The Line 2000 - 1」のイメージ

日向岬グリーンパークの風景イメージ

③アンケートの対象者

学生 60 人

④アンケートの方法

NCD 法により、環境彫刻「The Line 2000 - 1」、日向岬グリーンパークの風景に対して、被験者がいただく総合的印象と被験者の嗜好イメージを形容詞 180 語の中から 15 ～ 20 語を選択する方法を用いた。

⑤アンケート調査用紙



下記の180語から彫刻のイメージにあう言葉を15～20選び、右欄に数字を記入して下さい。

- | | | |
|--------------|--------------|--------------|
| 1. アクティブな | 61. 味わい深い | 121. アンティークな |
| 2. うれしい | 62. エレガントな | 122. おどかしい |
| 3. 開放的な | 63. 格調のある | 123. 活動的な |
| 4. かわいい | 64. 閑静な | 124. きめ細かい |
| 5. きりりとした | 65. クラシックな | 125. 健康な |
| 6. 高尚な | 66. 合理的な | 126. さりげない |
| 7. 親しみやすい | 67. 質素な | 127. シヤープな |
| 8. 情緒的な | 68. 丈夫な | 128. 紳士的な |
| 9. すすがしい | 69. 素直な | 129. 青春の |
| 10. 繊細な | 70. 荘厳な | 130. たくましい |
| 11. 丹念な | 71. 力強い | 131. 田舎的な |
| 12. なしみやすい | 72. なつかしい | 132. のんびりした |
| 13. はなやかな | 73. ひなびた | 133. フォーマルな |
| 14. 本格的な | 74. 真面目な | 134. モダンな |
| 15. 愉快な | 75. 優雅な | 135. りりしい |
| 16. あでやかな | 76. 深い | 136. ういっしい |
| 17. 円熟した | 77. 奥ゆかしい | 137. 快活な |
| 18. 静り気のない | 78. 活気ある | 138. 枯れた |
| 19. 甘美な | 79. 気品のある | 139. 強烈な |
| 20. クリアな | 80. 気高い | 140. 高雅な |
| 21. こってりした | 81. 古風な | 141. 静かな |
| 22. しとやかな | 82. 洗い | 142. 充実した |
| 23. 情緒的な | 83. 女性的な | 143. 進歩的な |
| 24. スピーディーな | 84. スマートな | 144. 精密な |
| 25. 装飾的な | 85. 大胆な | 145. 男性的な |
| 26. 知的な | 86. 慎ましい | 146. どっしりした |
| 27. にぎやかな | 87. のどかな | 147. はつとつとした |
| 28. 微妙な | 88. 風流な | 148. 濃潤な |
| 29. みずみずしい | 89. メカニックな | 149. やすらかな |
| 30. ユーモラスな | 90. 力動的な | 150. ワイルドな |
| 31. あざやかな | 91. 安全な | 151. 生き生きした |
| 32. エネルギッシュな | 92. 男っぽい | 152. 温雅な |
| 33. 革新的な | 93. がっしりした | 153. 家庭的な |
| 34. 簡素な | 94. 機敏な | 154. ニュートな |
| 35. くつろいだ | 95. 元氣な | 155. 整潔な |
| 36. 行動的な | 96. さっぱりした | 156. さわやかな |
| 37. シックな | 97. 地味な | 157. しやれた |
| 38. 上品な | 98. 人工的な | 158. 神秘的な |
| 39. すっきりした | 99. 清潔な | 159. 清潔な |
| 40. 洗練された | 100. ダイナミックな | 160. 美しい |
| 41. 淡白な | 101. 艶っぽい | 161. 伝統的な |
| 42. なごやかな | 102. のびのびした | 162. 激しい |
| 43. ひかえめな | 103. フェミニンな | 163. 文化的な |
| 44. マイルドな | 104. メルヘンの | 164. 躍動的な |
| 45. 豊かな | 105. 理知的な | 165. 冷靜な |
| 46. あどけない | 106. 原心地のよい | 166. 麗しい |
| 47. おおらかな | 107. 温和な | 167. 快適な |
| 48. カジュアルな | 108. 華麗な | 168. 可憐な |
| 49. 気軽な | 109. 清らかな | 169. 気楽な |
| 50. 軽快な | 110. 豪華な | 170. 豪華な |
| 51. 子供っぽい | 111. 刺激的な | 171. 自然な |
| 52. しなやかな | 112. 差厚な | 172. 純真な |
| 53. 叙情的な | 113. 新鮮な | 173. スカットした |
| 54. スピーディーな | 114. せいとくな | 174. クラシクな |
| 55. 素朴な | 115. タフな | 175. ダンディーな |
| 56. 緻密な | 116. 節儉的な | 176. ドレッシングな |
| 57. 柔軟な | 117. 肌ざわりのよい | 177. 派手な |
| 58. 風格のある | 118. 平和な | 178. ほがらかな |
| 59. 魅惑的な | 119. やさしい | 179. 優雅な |
| 60. 陽気な | 120. ロマンチックな | 180. 若々しい |

選択した数を 記入して下さい
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20

あまり深く考えずに
気軽にお選びください

氏名: _____

性別: 男・女 _____

年齢: _____

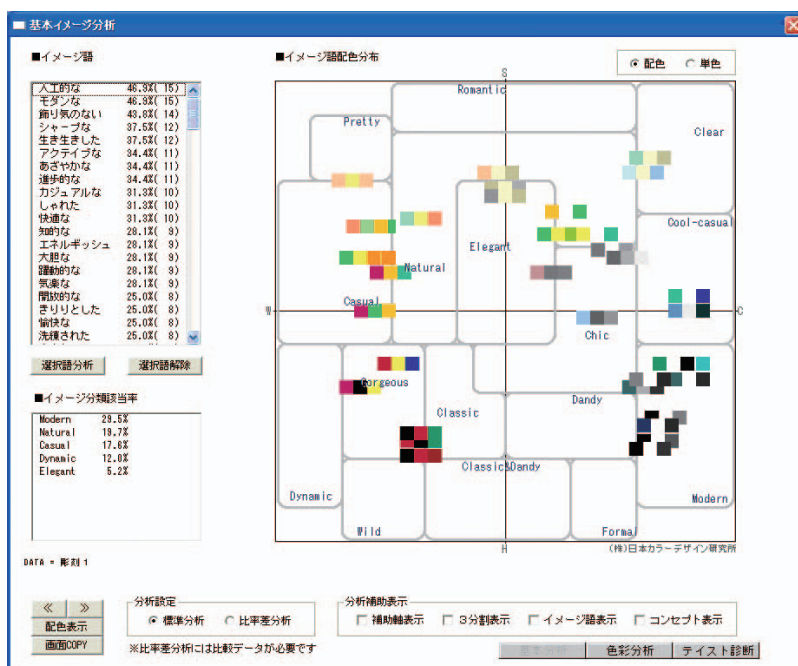
_____ 才 _____

□公共空間の彫刻と背景になる風景の関係

①彫刻（The Line 2000 - 1）に対するイメージ分析

W - C / S - Hのイメージスケールのゾーニングを見ると、モダン（29.5%）、ナチュラル（19.7%）、カジュアル（17.6%）、ダイナミック（12.0%）、エレガント（5.2%）に集まっていることが分かる。また、頻度の高い形容詞を見ると、人工的な（46.9%）、モダンな（46.9%）、飾り気のない（43.8%）、シャープな（37.5%）、生き生きとした（37.5%）、アクティブな（34.4%）となっている。このことから、この彫刻のイメージは「カジュアル・モダン」である。また彫刻（The Line 2000 - 1）のコンセプト・イメージである「力強く、カジュアルな彫刻」に一致している。

■彫刻（The Line 2000 - 1）のイメージ

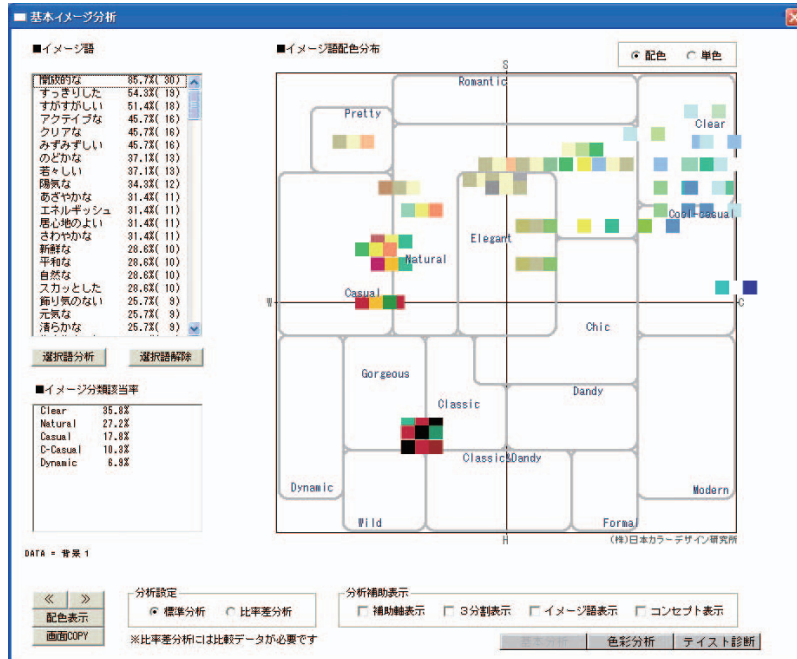


②日向岬グリーンパークの風景イメージに対するイメージ分析

W - C / S - Hのイメージスケールのゾーニングを見ると、クリア（35.8%）、ナチュラル（27.2%）に集中している。次にカジュアル（17.8%）、クール・カジュアル（10.3%）、ダイナミック（6.9%）の順となっている。頻度の高い形容詞をみると、開放的な（カジュアル）[85.7%]、すっきりした（クリア）[54.3%]、すがすがしい（クリア）[51.4%]、アクティブな（ダイナミック）[45.7%]、クリア（クリア）[45.7%]、みずみずしい（ナチュラル）[45.7%]、のどかな（ナチュラル）[37.1%]、若々しい（クール・カジュアル）[37.1%]形容詞が、上位をしめている。このことにより、日向岬グリーンパークの風景イメージは「ナチュラル・クリア」で、「カジュアル」となる。したがって日向岬グリーンパークの風景イメージコ

コンセプトは「豊かな自然の恵みを受けたカジュアル空間」である。

■日向岬グリーンパークの風景イメージ



□彫刻（The Line 2000 - 1）と日向岬グリーンパークの風景イメージとのイメージ関係

彫刻のメインデータの固有イメージ分析では W - C / S - H のイメージスケールを見ると、形容詞は人工的な（モダン）、モダンな（モダン）、シャープな（モダン）、生き生きした（ナチュラル）、進歩的な（モダン）、カジュアルな（カジュアル）、しゃれた（シック）が上位をしめている。また、風景のイメージではすっきりした（クリア）、すがすがしい（クリア）、クリアな（クリア）、みずみずしい（ナチュラル）、のどかな（ナチュラル）、若々しい（クール・カジュアル）、陽気な（カジュアル）の形容詞が、上位を示している。共通イメージは飾り気のない（ナチュラル）、アクティブな（ダイナミック）、あざやかな（カジュアル）、エネルギッシュ（ダイナミック）、開放的な（カジュアル）形容詞になる。

したがって制作した彫刻のイメージは「カジュアル・ナチュラル」で「モダン」である。それに対して背景の風景は「カジュアル・ナチュラル」で、「クリア」である。よって、イメージの構造は 1 部分共通ゾーンがある関係になる。

彫刻と背景の関係について 1993 年（平成 5 年）に近畿大学九州短期大学紀要（第 23 号）[データ 1] の発表と、日本デザイン学会（1994 年 デザイン学研究）[データ 2] の発表により彫刻と背景のイメージの関係については、下記のことがデータとして明らかになっている。

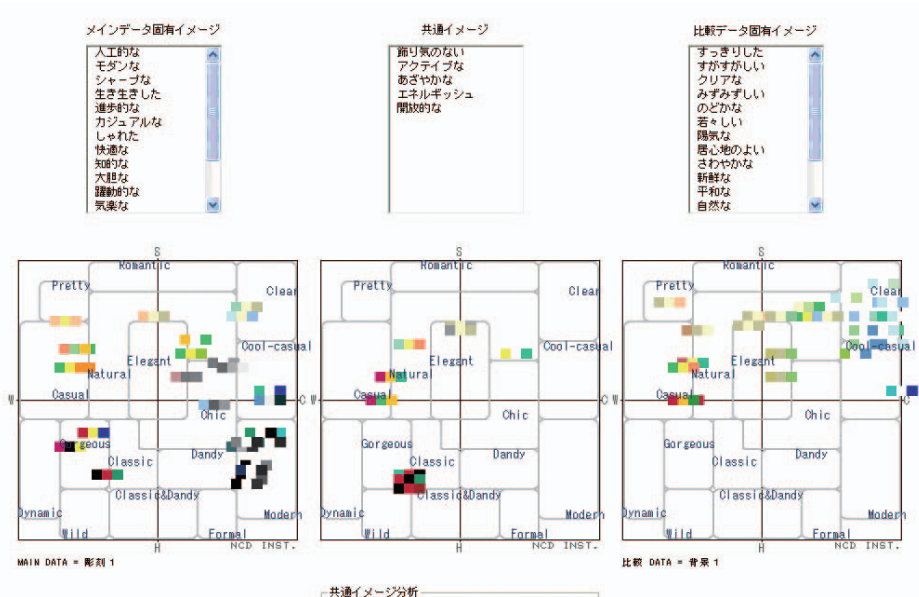
<彫刻と背景のイメージの関係は次の3つのパターンに分けられる>

- ①イメージの関係は、対立関係にある
- ②イメージの関係は、1部分共通ゾーンがある
- ③イメージの関係は、共通である

この3つのパターンの中で、①の場合、景観上、よくきわだった。②の場合、景観上、きわだつ部分もあるが、同化する部分もある。③の場合、景観上、同化する。となるが、彫刻の場合、作家のメッセージがあるから背景の風景とは同化するよりきわだつ部分もあることが好ましい。

よって彫刻（The Line 2000 - 1）と日向岬グリーンパークの風景イメージとの関係は②のイメージ関係は、1部分共通ゾーンがある。ということで景観上、きわだち、尚且つ同化するの、きわめて好ましい結果が得られた。

■彫刻（The Line 2000 - 1）と日向岬グリーンパークの風景イメージの共通イメージ分析



II . 研究のまとめ

公共空間の彫刻を依頼され、計画・制作し、24年が経過した。またNCD法という科学的方法を取り入れ、15年が経過した。今回の日向環境彫刻は永久設置ではなかったが、制作の前に計画したことと今回の調査データとが一致していることが判明した。

また彫刻と背景のイメージの関係については、

<彫刻と背景のイメージの関係は次の3つのパターンに分けられる>

- ①イメージの関係は、対立関係にある
- ②イメージの関係は、1部分共通ゾーンがある

③イメージの関係は、共通である

この3つのパターンの中で、

①の場合、景観上、よく際立つ。

②の場合、景観上、きわだつ部分もあるが、同化する部分もある。

③の場合、景観上、同化する。となるが、

彫刻の場合、作家のメッセージがあるから背景と彫刻のイメージの関係は同化するよりきわだつ部分もあることが好ましい。それは、1部分共通ゾーンがあることで彫刻と背景とが響きあい共鳴しているのである。

日頃から科学的方法のNCD法も取り入れ、感性を磨く彫刻制作のスタンスがいかに大切であるか実感した。このことが、環境彫刻の設計上きわめて適切なる対応ができる。ここではとりあげなかったが、市民に親しまれる彫刻はどういう彫刻であるかという問題も調査する必要がある。また制作した時代が求めた「うるおいと生きがいのあるまちづくりを目指し、広く市民に現代彫刻を鑑賞する機会を提供し、美術文化水準の向上をめざすことを目的とする」ことのコネクトは過去の考え方として扱ってよいかという問題もある。今後、時間が経過することに市民の嗜好イメージも変わってくる。よって市民に親しまれる彫刻はどういう彫刻であるかということもこの研究を通じて、再調査する必要が課題として出てきた。

公共空間における彫刻作品のあり方は、今後も、問われ続けられると思われる。また、同時に調査方法の問題も問われている。感性の世界が科学的データに基づいて客観的になることが公共空間の質につながると考えられる。

引用・参考文献

- 1) M. A ロビネット著、千葉成夫訳「野外彫刻」(SD、鹿島出版会)
- 2) 竹田直樹著「公的空間の彫刻作品に対する規制と撤去・破壊の史的変遷」(デザイン学研究 88号、1992)
- 3) 竹田直樹著「公的空間の彫刻作品の作品内容の在り方」(デザイン学研究 97号、1993)
- 4) 小林重順著「カラー・イメージ辞典」(日本カラーデザイン研究所)
- 5) 小林重順著「カラーマーケティング戦略」(日本カラーデザイン研究所)
- 6) 小林重順著「造形構成の心理」(ダヴィッド社)
- 7) 公共空間における彫刻作品に対するイメージ調査 有田信夫
ON THE INVESTIGATION OF IMAGES TOWARDS SCULPTURES IN PUBLIC SPACE
近畿大学九州短期大学研究紀要 第23号 平成5年12月
- 8) 公共空間における環境彫刻に対するイメージ調査
一環境彫刻のイメージと世代別嗜好イメージとの差一
有田信夫(日本基礎造形学会論文集・011号、2002)

9) 公共空間の環境彫刻に対するイメージ調査

環境彫刻のイメージと風土イメージの差

A COMPARISON STUDY ON DIFFERENCES OF IMAGES TOWARDS
ENVIRONMENTAL SCULPTURES IN PUBLIC SPACES

A Comparison of the Differences between Images towards Environmental Sculptures
and Images of Regional Climate 有田信夫 (日本基礎造形学会論文集・012号・2003)

要旨

この20年、全国の公共空間に、数多くの彫刻作品が設置されるようになった。美観を高めたり、公共空間を訪れる人々にメッセージや安らぎを与えるためである。

しかし、これまで、公共空間に彫刻を設置する場合は、彫刻家や行政、設置に関わる人の見識にまかされるケースが多く、この場合、彫刻家や行政、設置に関わる人は公共空間との調和を全く考えない訳ではなかったが、どちらかと言えば、感覚的世界に頼りがちである。このため、彫刻設置のねらいとは逆に、設置された彫刻が不適切なため、公共空間のイメージを損ない、本来のメッセージを伝えたり安らぎを与えていない場合がある。また、ある公共空間に、不適切なイメージの作品が設置された場合、美観を視覚的にそこない、そのうえ、彫刻作品に接する人に心理的に不快な感じを与える。公共空間と彫刻との調和を含めた景観の在り方が問われているのであり、そのためには、科学的なデータに基づく検討が必要と言える。そこでまず、公共空間に適した彫刻を配置する研究の為、自らが日向岬グリーンパークに設置した初期の彫刻(The Line 2000 - 1)を取り上げ、その制作コンセプトと制作プロセス、公共空間における彫刻と背景になる風景の関係、環境彫刻と市民の嗜好イメージについて分析した。

キーワード 環境彫刻、公共空間、感性イメージ、